

部会・プロジェクト紹介⑥

このコーナーでは MELON の活動母体である各部会・プロジェクトの活動を、1つずつピックアップして紹介していきます。

企業&環境プロジェクト

企業でお仕事をしている皆さん、職場では裏紙の利用は徹底されていますか？利用していない部屋の電気は消していますか？職場においても取り組めることはたくさんありますが、何か環境に対する取り組みを行っていますか？

「環境」というテーマを考えた時、企業に求められることは、利害や組織の枠組みを越え、持続的に発展可能な社会のあり方をイメージすることです。そして未来に向けてどのようなアクションが必要なのかを把握し、実践することが大事です。現代社会では、どの業界においても社会的な責任を果たすため環境問題を避けて通ることはできません。

生活のあらゆる場面で環境負荷を減らし「持続可能な社会」へと転換を図るために企業は大きな役割を担っています。では、具体的にどんなビジョンを持って持続可能な社会を構築していくか——企業&環境プロジェクトでは業種の枠を越えて、企業の環境に対する取り組みについて考え、学びあうことを目的に活動しています。

✿ プロジェクトに参加してみませんか？

本プロジェクトでは年 4 回例会を開催し、情報交換を行いながら、タイムリーな話題を取り上げた企業向けの講演会の企画・開催を行っています。環境関連の担当者はもちろん、企業の環境に対する取り組みに興味がある方、研究されている方も大歓迎です。ぜひお気軽にご参加ください。

事務局担当／星



昨年開催した講演会「これからの企業」の様子

MELON20周年をめざせ！

50人リレートーク



第6回目の執筆者

湊 秋作さん
(八ヶ岳 田んぼの学校)

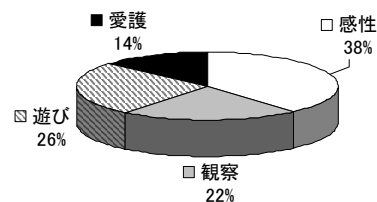
山梨は、八ヶ岳の麓にぼくたちの「八ヶ岳田んぼの学校」があります。正面には富士山が、側面には南アルプスが眺望され、背後には雪かぶる八ヶ岳があります。活動の願いは、日本の大きな環境の要素である「田んぼ」を守り、そこで次代を担う子どもたちに「環境教育」を提供し、日本の自然と人をも守ることです。活動内容は「米づくり」、「田んぼ水族館を通した環境保全の提案」、「文化調査」、「教育研究」です。

本稿では、5月22日に環境教育学会で発表したできたてほやほやの「教育研究」について報告します。研究テーマは、田んぼのカエル、泥などとふれあう「自然体験」と、触覚・視覚などを用いる「五感体験」が子どもの教育にどのような効果があるのかを定量的に示すことです。対象は保育園の園児です。教育とは変化させること、その変化と状況を園児の「言葉」から評価することにしました。園児にはアンケートやテストで分析できないので、人の”内側”から出てくる「言葉」を指標としたのです。

それで、田んぼと田んぼ水族館（休耕田を池とし、通年、水を溜めているので生き物が豊富）での年6回の体験時の声をビデオで記録し、計 1476 の声から分析しました。その結果、ヤゴやカエル・稲・水などの自然物や五感体験は、「感性」、「科学的な想い」、「愛護心」、「自然遊び」を刺激し、育てることが数値的に示されました。特にどの自然物もどの五感も感性を育みます。

つまり、田んぼの泥、水、ゲンゴロウたちは子どもを育ててくれる働きがあり、それを五感で体験することは、子どもの成長のよき栄養となることが示されました。田んぼは、子育ての場として最高の場なのです。

カエル



次号予告

次は、中山昭岳さん。熊野川小学校教諭(和歌山県)。田んぼ水族館の推進者。田んぼの教育と情報教育をリンクさせている。